

認知症ケアについて 研修会報告

この研修会は、認知症ケアについて正しい知識を持ち、具体的な対応ポイントを習得し、介護計画等に活かすことを目的として開催しました。会場およびオンラインで開催し、多職種97名（会場25名、オンライン72名）の方がご参加くださいました。

＊ 講義のポイント ＊

- 記憶とは…外から情報を受け取って処理し取り出す過程のこと：記銘→保持→想起 認知症は保持がいちばん苦手になる
- 感情（怖い、悲しい、楽しい、嬉しいなど）は残りやすいため、声掛けや支援の際に意識する
- 褒めること、会話は基本アゲアゲで↑+笑顔☺
- 記憶障害→否定せず安心感をもってもらう、メモの活用、繰り返し伝えることで記憶の保持につながる
- 遂行機能障害→どこが苦手になっているのかを確認し、できない部分を補う
- 見当識障害→会話の中に季節や日付を感じさせる内容を意識して盛り込む、不安や怖い気持ちを否定しない、安心できる居場所づくり
- ものとり妄想→説得は逆効果！否定も肯定もせず落ち着いて話を聞き、見つかった時は肯定的な声掛けを！
- 徘徊→背景に記憶・見当識障害、不安などがある、見守り機能のある製品等の活用、近所の人への相談
- 意思決定支援の基本原則 ①本人の意思の尊重 ②本人の意思決定能力への配慮 ③チームによる早期からの継続的支援

開催日：2025年6月12日（木）
14時～15時30分
医師会館中ホール

講師 **高橋 学美** 氏
たかはし まなみ

姫路中央病院
患者サポートセンター
副看護師長
認知症看護認定看護師



＊ 参加者の皆さまからの声をご紹介します ＊ （アンケートより）

- 日々の関わり方がいかに大切であるか、また行動の過程を観察しケアのヒントを探ることや、具体例を学ぶことができた。
- 自身の経験から、本人に起こっている症状や感情を理解する為にも早期受診の必要性を感じており、症状に応じた対応を行う事が必要と思った。本人がその人らしく生活できるようにこれから関わっていきたい。
- 患者の症状に対する対応策の参考になった。家族に認知症の理解をしてもらうためのアプローチの仕方等も学べた。
- 認知症の種類やその人に合わせた関わり方、認知症疾患医療センターへのつなぎ方など連携方法も理解できた。
- 認知症だから仕方ない…ではなく、絵、書く、指さしなどのボディランゲージ等々、誰にでも優しいツールで通じ合うことを意識したい。
- 今回の研修資料をもとに勉強会をおこない、学び合ってサービス向上に努めたい。

★今後も医療・介護専門職を対象とした様々な研修会を企画しております！お楽しみに★